

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103060
法人名	医療法人 仁愛会
事業所名	グループホーム 笑憩の里
訪問調査日	平成 21 年 4 月 24 日
評価確定日	平成 21 年 5 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 4月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	4670103060
法人名	医療法人仁愛会
事業所名	グループホーム 笑靨の里
所在地	鹿児島市吉野町5221番地 (電話) 099-295-8650

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年4月24日	評価確定日	平成21年5月15日

【情報提供票より】(21年 3月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 1月 27日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 8人, 非常勤 10人, 常勤換算 13.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	— 円
	または1日当たり		1000 円	

(4) 利用者の概要(3月 31日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	64歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	花倉病院 ・ 大田歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム笑靨の里は鹿児島市郊外の吉野の高台にあり、庭からは錦江湾・桜島が眺められる景色の良いところである。職員は、利用者が家庭で過ごしている時の家族のように接しながら、利用者のペースに添った支援を心がけている。昨年度から吉野地区グループホームでのネットワーク作りに参加して、職員のサービスの質の向上の取り組みに努めている。今後、より一層のケアの向上が期待できる事業所である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価は、職員会議で報告し、話し合い災害時の非常食・飲料水の備蓄を検討しているところである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員一人ひとりに記入してもらい、そして、話し合い管理者がまとめて作り上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者・家族・町内会長・民生委員そして、包括支援センター職員が時々参加して、2ヶ月に一回開催している。事業所の状況を報告し、毎回テーマを決めて勉強会を行って、地域や家族の方々に認知症を知ってもらう機会にしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に家族の意見を聞くようにしている。家族からの意見を聞ける機会として運営推進会議を利用している。職員のケアの質の向上のためにも、家族からの率直な意見を頂き運営に反映させていけるように、家族だけで集まる機会やアンケートなどで、家族の意見を聞くための工夫を期待します。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小中学校の職場体験や学生ボランティアを受け入れている。地域のバザーや運動会に参加して、地域の方々と交流することに努めている。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から「いっしょに たのしく ゆったり」という基本理念に、18年度から「グループホームのケアのあり方、役割りや課題を地域に発信し、認知症高齢者を支えるまち作りに貢献します。」と地域密着型サービスとしての理念を付け加えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を共有し、利用者が家庭にいる時と同じような生活ができるように接し、地域の行事に参加して理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小中学校の職場体験や学生ボランティアを受け入れている。地域のバザーや運動会に参加して、地域の方々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員一人ひとりに記入してもらい、そして、話し合い管理者がまとめて作り上げている。前回の外部評価の結果は、職員会議で報告し、話し合い災害時の非常食・飲料水の備蓄を検討しているところである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・町内会長・民生委員そして、包括支援センター職員が時々参加して、2ヶ月に一回開催している。事業所の状況を報告し、毎回テーマを決めて勉強会を行って、地域や家族の方々に認知症を知ってもらう機会にしている。		

鹿児島県 グループホーム笑憩の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員に運営推進会議への出席を電話や書類でお願いしているが、今まで包括支援センターの職員のみ出席に止まっている。	○	市町村への働きかけを再三行い、運営推進会議や事業所の行事に参加してもらえるよう期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族に、面会時や電話で健康状態・暮らしぶりを報告している。金銭管理については、2月・8月に領収書と出納帳のコピーを送付して確認書を頂いている。毎月のホームだよりと運営推進会議録のコピーも家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の意見を聞くようにしている。家族からの意見を聞ける機会として運営推進会議を利用している。	○	職員のケアの質の向上のためにも、家族だけが集まる機会やアンケートなどで、具体的な家族からの意見を聞く工夫を望みます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットで合同レクリエーションなどの交流をすることで、利用者顔馴染みになっているため、ユニット間の職員の交代による利用者のダメージは少ない。また、職員会議で利用者の状況を出し合い、全職員が、2ユニットの利用者の把握ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議で勉強会を行い、外部研修の報告も行っている。職員全員が、周知するために、報告書を回覧してサインをしている。新人職員は、一定期間、担当者をつけて指導している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年、吉野地区のグループホームの連絡会を結成し、ネットワーク作りに参加している。	○	これから吉野地区のグループホームと交流する機会を持ち、勉強会・相互訪問活動をして、サービスの質の向上に取り組むことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを開始する前に、本人・家族に見学をしてもらい、職員や利用者で交流する機会を設けている。入居後は、家族の協力をもらい、面会を頻回にしてもらい、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の生活のペースを見極め、家事活動やレクリエーションを一緒にしながら、喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者にカンファレンスに参加してもらい、思いや意向を話してもらっている。困難な方は、職員の気付きを出し合い、本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族・主治医・職員で担当者会議を開催して、それぞれの意見を反映した介護計画を年1回作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は、毎日サービス目標に対しての実施を記録して、毎月職員で話し合い見直しをしている。対応できない変化が生じた場合は、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎月1回、協力病院の医師による往診をしている。家族の要望があれば、通院時の送迎の支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する病院への受診支援をしている。定期往診時に助言を受けて、主治医との連携に努め、適切な医療を受けられるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期における対応指針を作成し、家族にグループホームとして対応できる内容を説明している。職員との話し合いも行われ全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、職員会議や現場で直接指導している。守秘義務については、職員採用時に契約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にして、今、そのときを見極めて、朝寝をしたり、食事が一度に食べきれない利用者には、2回に分けて食事をするなど、希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量にあわせて、食事の下ごしらえ・片付けをしている。誕生日には、本人の好きな物を献立に組み込んで、作っている。利用者と職員は、一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から利用者の状態に合わせて、入浴支援をしている。入浴を拒否される方は、声かけの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を活かし、掃除・生け花・天気の記録・食事の準備などの役割、カラオケ・ボール投げなどのレクリエーション、ドライブなど楽しみ気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年10回ほど季節ごとの花見、そうめん流しへと、ドライブをしている。天気の良い日は、屋外レク・庭の散歩など敷地内で、過ごしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠の弊害を理解して、居室・日中の玄関に、鍵をかけないケアを実施している。外出傾向のある利用者を把握し、地域の方々にも協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導の下、夜間想定避難誘導・初期消火の訓練を行っている。非常食・飲料水の準備をする予定である。	○	地震・風水害の避難訓練の自主訓練を行い、職員が自信を持って避難誘導できるように期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量については、チェックされている。食べる量は、2回に分けてでも、全量摂取できるように心がけている。病院の栄養士に栄養バランスを見てもらっている。ミキサー食など利用者の状態に合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭から玄関は、なだらかなスロープになっている。玄関には、利用者が活けた活け花が飾られている。リビングと食堂は分かれ、食事を終えた利用者は、リビングで思い思いの場所で過ごしている。壁には、レクリエーションで作成した壁飾りや書道の作品が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇・位牌・神棚・ソファ・使い慣れたタンスなど持ち込まれ、利用者それぞれの個性のある居室が作られている。		